

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

近畿中国森林管理局の保護林

～森林生態系や希少な野生生物の保護・管理～

国有林野には、原生的な天然林をはじめとした、生物多様性保全の核となる生態系が多く残されており、各森林管理局ではこのような森林を「保護林」に設定しています。平成28年4月現在、全国で約96万8千ha、当森林管理局で2万1千haを「保護林」に設定し、森林や動物等の状況変化について定期的にモニタリングしながら、厳格な保護・管理を行っています。

この保護林制度は大正4年(1915)に発足し、平成27年(2015)に創設から100年を迎えました。例えば、当局管内では、大正7(1918)年に、学術上の参考とする目的で和歌山県内の高野山国有林に所在する全国的にも珍しいコウヤマキの純林に近い群落を「保護林」として設定し、現在まで大切に保護しています。

創設以来、時代に合わせて見直しを行いながら成果を上げてきた保護林制度ですが、近年の生物多様性保全に対する国民の認識の高まりや、学術的な知見の蓄積を踏まえ、平成27年9月にその改正が行われました。具体的には、森林生態系や個体群の持続性に着目した分かりやすく効果的な保護林区分の導入、森林生態系を「復元」する考え方の導入、簡素で効率的な管理体制の再構築などです。

新たな保護林制度における保護林区分は、①森林生態系保護地域(我が国の気候帯又は森林帯を代表する原生的な天然林を保護・管理)、②生物群集保護林(地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理)、③希少個体群保護林(希少な野生生物の生育・生息に必要な森林を保護・管理)、となっています。当森林管理局では有識者の意見を聴きつつ、旧7区分に分類されていた既存の81の保護林を平成30年4月1日までに80(森林生態系保護地域3、生物群集保護林8、希少個体群保護林69)に再編しました。今後は、保護林のモニタリング結果の検証等を行いながら新たな制度による保護・管理に努めていくこととしています。



大杉谷森林生態系保護地域

大台ヶ原山の北東側に当たり、原生的な暖温帯性常緑広葉樹林、冷温帯性広葉樹林、亜寒帯性針葉樹林が分布。太平洋側で見られるほとんどの動植物が生育・生息している。(三重森林管理署管内、1,391ha)



犀川源流生物群集保護林

金沢市街地の中央を流れる犀川の源流に当たる。ブナを中心とする生物群集のほかオオバクロモジ、マルバマンサク、ハイイヌガヤ、ヒメアオキなどの日本海側の多雪地帯に分布する種が生育している。(石川森林管理署管内、1,794ha)



高野山コウヤマキ希少個体群保護林

全国的にも珍しいコウヤマキの純林に近い群落が見られるほか、スギ、ヒノキ、モミ、ツガ等の常緑針葉樹も生育している。(和歌山森林管理署管内、30ha)

ニュース

大山並木松苗木 (三代目) 植替え体験学習 大山小学校

【鳥取森林管理署】

鳥取県の大山並木松は、江戸時代に、大山寺参詣の道しるべとして豪圓僧正の命により植えられたとされ、樹齢は約400年と歴史的に貴重な存在です。しかし、老化や、松くい虫の被害により減少しています。

このため、未来に残すための取組として二代目となる苗木を、鳥取森林管理署、大山小学校並びに国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター関西育種場の3者が協力して育苗しており、2年前には、当時の1・2年生を対象に、種まき、接木の体験学習を実施しました。

2月9日、この発芽した苗木を、大山小学校において、3・4年生の児童が、植替しました。

鳥取署職員から、大山並木松の特徴、マツの種類や菌根菌の説明を行った後、同センター職員の指導のもと、児童が1本ずつ育苗ポットへ植え替え、自分の名前を書いた札を取り付けました。

参加した児童からは、「マツの種類、苗木について知らないことを学習できた」、「小さな苗木の根が長く伸びていてびっくりした」、「元気に生長して立派な並木松になってほしい」などの感想がありました。

植え替えた苗は、3月まで同センターで保管し、4月以降は小学校で育成し、来年の春頃に児童が二代目並木松として植栽する予定です。



第16回 夜叉ヶ池保全連絡調整会議の開催

【福井森林管理署】

平成30年2月26日に福井県の南越前町商工会館今庄支所において、第16回 夜叉ヶ池保全連絡調整会議を開催しました。この会議は、岩谷国有林（福井県南越前町）内にある夜叉ヶ池に生息するヤシャゲンゴロウ（国内希少野生動物種）の保護と夜叉ヶ池周辺の自然環境の保全についての情報共有と意見交換を目的に、岐阜県と福井県の山岳連盟等の利用者団体を含む幅広い関係者を集めて毎年開催しています。

会議では、福井森林管理署から登山者へのマナー啓発活動や各種調査業務の取組について報告を行い、出席者からは、夜叉ヶ池の保全やヤシャゲンゴロウの生息状況について活発な議論が行われました。

夜叉ヶ池へは、岐阜県揖斐川町坂内からと福井県南越前町広野からの2本の登山道があり、登山シーズンには、毎年多くの登山者で賑わいます。しかしながら、夜叉ヶ池自身の自浄作用が極端に小さいことから、水質環境や外来生物の侵入には最大限の配慮を必要としており、利用者が夜叉ヶ池とヤシャゲンゴロウの貴重性を認識し夜叉ヶ池の環境を第一に考えた行動が必要とされています。

パトロール員から「積年の関係者による尽力の結果、年々利用者のマナーは改善している。」という報告があり、自然環境への理解が深まっていると感じました。



夜叉ヶ池

卒業記念に丸太イスを贈呈

【和歌山森林管理署】

和歌山森林管理署では、高野山を訪れる方に木の良さ、大切さを理解していただくため、金剛峯寺、高野町、南海電鉄高野山駅、高野山小学校及び花坂小学校の卒業生と協力して、小学校の卒業記念として丸太イスを作成し、南海電鉄高野山駅と国道480号線沿いの天狗嶽逢い拝所に設置しました。この取組は、平成26年度から行っており、今年で4回目となります。

設置した丸太イスは、国有林の林道を開設する際に支障となった木を利用して、高野山小学校と花坂小学校の卒業生が和歌山署職員の指導のもと、ペーパーによる座面の仕上げと焼きごてによる焼印を押して完成させました。児童たちには、木の良さや細工の楽しさが実感できたことと好評でした。



ペーパーで表面仕上げ



焼きごてによる焼付け

平成30年3月6日に行われた贈呈式には、高野山小学校の卒業生11名の外、関係者が出席しました。また、南海電鉄から小学校の卒業生に記念グッズが配られました。



和歌山森林管理署では、森林のPRと地域振興のため、今後も可能な限り継続して取り組みたいと考えています。



記念グッズを手に記念撮影

～木造化・木質化された建築の付加価値化について議論～ 近畿木材利用建築促進フォーラム

【資源活用課】

近畿中国森林管理局は、国土交通省近畿地方整備局及び関西広域木造建築普及促進協議会と共催し、平成30年2月15日、局会議室において「近畿木材利用建築促進フォーラム～CLT等様々な木材の利活用～」を開催しました。

高野浩文局長から冒頭のあいさつで「木材は調湿性、断熱性等建築資材として優れた特性を有している。地球温暖化の緩和に大きく貢献することも注目されている。一方、わが国の森林は、戦後植えられた人工林が成熟期を迎え、資源として本格的な利用期を迎えている。こうしたことから、建築物への木材利用の推進が重要。」と述べました。

京都大学・五十田博教授から最近の都市木造建築の動向についての基調講演後、三菱地所(株)、(株)竹中工務店による中規模賃貸用不動産への木造(CLT)床の活用事例、(株)紅中、アーク不動産(株)から建物の木造化の取組事例が報告されました。



パネルディスカッションでは、日経BP社・小原隆氏の進行により、木造化・木質化された建築物の付加価値化について議論され、まずは建築における木材マーケットの拡大に向けて、さまざまな用途に少しでも木材を使うことが重要との認識が共有されました。

本フォーラムには建築・建設、不動産、木材、行政(建築、森林分野)など幅広い分野から161名が参加し、建築物の木造化・木質化への高い関心がうかがえました。



パネルディスカッション

シリーズ 『国有林 最前線!』

平成29年度地域管理経営計画等に関する有識者懇談会を開催 計画課

近畿中国森林管理局は、北陸、近畿、中国地方の2府12県に所在する国有林野約31万haの管理経営を行っています。

国有林野の管理経営については、森林管理局長が流域（森林計画区）ごとに「地域管理経営計画」、「国有林野施業実施計画」により管理経営の考え方や伐採等の事業の量・箇所等を5年を一期として定めて行うこととしています。今年度は、若狭、湖南、淀川上流、大和・木津川、尾鷲熊野、斐伊川、吉井川、萩の8森林計画区について「地域管理経営計画」等を策定するとともに、加賀ほか22森林計画区について、現行計画の一部変更を行うこととしており、平成30年2月22日、これらの計画案について、有識者から御意見をお伺いする懇談会を開催しました。

この懇談会は、国有林野の管理経営に関する法律等に基づき、「地域管理経営計画」、「国有林野施業実施計画」をより良い計画とするため、森林・林業、建築、環境、報道など様々な分野の外部有識者に委員としてお集まりいただき、幅広くご意見をお聞きすることを目的に実施しているものです。

懇談会では、森林管理局から、今年度策定の森林計画には紀伊山地、中国山地の水源地域に位置する森林や、京都嵐山・大和三山といった伝統や文化との繋がりが深い森林、日本三大松原の一つ、敦賀湾に面した気比の松原など多種多様な森林が分布していること、当局では、公益重視の管理経営、林業の成長産業化への貢献、国民の森林としての管理経営を基本方針として、それぞれの国有林野の特徴に応じ、森林整備、治山などの事業や森林の保護・活用、木材の安定供給、民有林と連携した森林施業や人材育成に計画的に取り組むことを説明しました。

委員からは、「国有林の民有林支援の役割は」、「林業の低コストに向けた民有林との連携は」といった質問や、「資源活用という観点から、獣害対策で捕獲したシカのジビエ活用を」、「市民が利用できるレクリエーションの森が設定されていることや国有林で社寺を修復する檜皮が採取され使われていること等の情報は一般の方に分かりやすく、届きやすい形で情報発信を」、「早生樹の植栽試験では環境への影響も入れてはどうか」などの意見が出されました。

今後、3月下旬に計画を策定・公表するとともに、懇談会で出された意見は、国有林野の管理経営に役立てることとしています。



懇談会の様子

広島北部森林管理署 三和・油木森林事務所 首席森林官 榎原佳子

三和森林事務所は、広島県東部の神石高原町（じんせきこうげんちょう）に所在します。中国山地の標高400m～800mの高原地帯で、町の中心部が標高510mにある名前のとおり高原の町です。そのため、年平均気温も10℃前後と比較的涼しく、今季の最低気温はマイナス13℃、最高気温も氷点下という町中が凍りつく日もありました。

町の森林面積は31千ha、森林率は80%を占めています。そのうち国有林の面積は約3,700ha、町内各所に小面積の国有林が散在しています。人工林率は62%で、戦後に植林された人工林が伐採適期を迎えています。

近年は伐採と再造林を一括して行う一貫作業システムや、立木を支柱に利用したシカ防護柵の設置など低コスト林業への実践に取り組んでいます。

また、平成28年度から市町村森林整備計画の達成に向けた活動として、福永区域森林整備推進協定を締結し、同町がケーススタディ地区に設定され、県や署の森林総合監理士等がチームとなって、町や神石郡森林組合等とも連携しながら、「小規模分散型の森林の集約団地化」への取組を行っています。

この活動の一環として、再造林の低コスト施業技術に関する現地検討会や勉強会を開催しました。2,000本植栽と3,000本植栽の生育状況の比較や一貫施業後の下刈省略といった先進的な取組を行っている国有林を、技術普及等のフィールドとして提供し、地域林業に貢献しています。



運営会議



2000本/ha植栽地を活用した現地検討会

